

花笠まつり 熱中症厳戒

山形市で14日連続の猛暑日となる中、8月には各地で主要な夏祭りが相次ぎ開催される。同市の山形花笠まつり(8月5～7日)では新たに救護所を広範囲に配置するほか、歩道に埋設した融雪用の管に地下水を流して路面温度の冷却を図るなど手厚い熱中症対策を準備している。主催者は小まめな水分補給はもちろん「踊り手を含め、体調が優れない時には無理をしないでほしい」と注意を呼びかけている。

＝1面に関連記事

主催者「**体調優れない時は無理せず**」

救護所より広範囲に ◇ 地下水流し 歩道冷却

実行委員会によると、パレードの距離は踊り手の負担軽減のため、昨年同様に1キロから800メートルに短縮する。昨年はパレードのスタート地点に踊り手用の給水所を設け、水入りのコップを配るなどして事前の水分補給を促した。給水する前にパレードが始まる団体があり、今回はスタート前に参加者が集合する市民会館を給水所とし、全員が余裕を持って水分補給できるようにする。

昨年は、アズセ七日町前▽山形商工会議所前▽文翔館前―の3カ所に設けた救護所の配置を今年は変更する。ゴール地点周辺の救護は山形商工会議所前に集約して対応することにし、文翔館前の救護所をスタート地点の東北電力山形支店前に移動する。実行委は「より広範囲に配置することで、一般観客を含めた対応が可能になる」としている。救護所には医師と救急救命士、看護師が常駐する。

国土交通省山形河川国道事務所と日本地下水開発(同市)は、パレード区間の歩道下に埋設されている融雪装置を活用した対策を初めて行う。融雪用の管に地下水を流して歩道を冷却する試みで、同事務所の担当者は「歩道に並ぶ観覧客にとっては少しは(体感温度の)違いが出るのではないか」と期待している。

(小林達也)